



つながる  
ひろがる

## 地域福祉を支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介します。

Q 活動をしやすくなつたと感じることは?

細田 特に新任の民生委員ですと、悩むことも多いので、毎月こうした話し合いの場があることで、専門職との関係が築け、気兼ねなく相談できるようになつたことですね。

Q 地域活動計画を立てることになつたきっかけは?

東出 社協から、早く取り組んだ方がいいと押されて(笑)。当時、私も策定委員会の事務局長として計画策定に取り組む中で、団体間の結束が強くなりまつたことですね。

会の広報紙等でボランティア募集するほか、高齢で体力的に難しくなると他の活動にかかわづら2人一組で行うなど負担を軽くする工夫をしています。

吉井 現在、毎週火曜日にふれあい喫茶を開設しています。うつ、認知症など少し気になる方も含め、地域の方が誘い合わせて立ち寄り、コーヒーを飲みながら顔見知りをたくさんつくつてもらい、お互に気かけあえる地域になればと思つています。

吉井 計画づくりもそうですが、みんなで課題や情報を共有し、話し合う場は大切です。

先日も、包括Cと市の高齢担当課、CSWに集まつていただき、民生委員が守秘義務に留意して情報提供した後の支援について、個々ではなく、お互いに共有して進めようと強く提案しました。

木村みづほさん 富田林東部在宅介護支援センター(柳生苑)

吉井美沙子さん 民児協松原地区委員長

Q 情報交換会を始めたきっかけは?

高橋 民生委員さんとの顔の見える関係づくりのため、個別に訪問するなどの取り組みをしていました。定期的に全員を訪問することは難しく、それならば毎月開催されている地区委員会に伺おうと、平成21年くらいから始めました。

宮本 私たちが関わる相談は、様々な課題が絡み合つていて、どのようにSOSを出せばよいかわからずに困つていて、S Wの役割ですが、一人だけでは何もできません。

Q 今、地域で課題と感じることや今後の抱負は?

森本 特に高齢者の多い地域では、若い人は働きに出ていることもあつて、民生委員のなり手がなかなかいません。他の地域でもそうだと思いますが、担い

地区内の住民や当事者団体に呼びかけ、「井戸端会議」を開いたのですが、障がいのある人や様々な立場の人から、地域に対して思つてることを直接聞けて、やつてよかったです。

Q 今、地域で課題と感じることや今後の抱負は?

東出 担い手や活動場所の確保が課題ですね。毎年、福祉委員

ある集合住宅では、ひとり暮らしや認知症の高齢者が増えることが予想され、その近くでも、ふれあい喫茶を始めたいです。

山本 私たちの役割には、児童虐待や不登校やいじめといった子どもの問題に関する支援もあります。今後、地元の学校と定期的に情報交換の場を持つなどしながら、気になる児童の見守りといつたサポートができる体制を作れればいいですね。

木村 同居しているが故にサービスや相談機関とつながっています。

例え、安否確認の依頼が入った場合、地域の民生委員さんは、若く駆けつけてもらう

木村 手不足は悩ましい問題ですね。でもうだと思いますが、担い



高橋 大河さん  
富田林市社協  
包括C副主任



宮本 宜典さん  
富田林市社協  
CSW



細田喜美子さん  
川西地区  
民児協委員長



東出一郎さん  
松原地区  
福祉委員会委員長



森本 照美さん  
川西地区  
民児協委員



吉井美沙子さん  
民児協  
松原地区委員長

木村みづほさん 富田林東部在宅介護支援センター(柳生苑)